



菊池市で暮らす外国人が参加するイベントを主体となつて企画・運営する「せいかいかいぎ」のメンバーたち



多文化共生の現在地

昨年6月末の時点で日本に在留する外国人は過去最多320万人。熊本でも2万人を超え、10年前と比べて2倍以上に増加しています。今回は、県内で進む地域に暮らす外国人住民との交流や、新たな多文化共生の取り組みを紹介します。

INTERVIEW 多文化共生に向けて必要なこと

出生率の低下で全国的に外国人労働者の需要が高まる中、県内でも外国人との多文化共生社会を目指す努力が求められています。

多文化共生社会は、法整備などの公共性、そして周囲の人々とのつながりで生まれる親密性で成り立つもの。日本へやって来て、言葉が通じない中で仕事をし、孤独を感じている外国人をケアするためには、その両方を充実させていく必要があります。

しかし、現状は外国人労働者が、まるで透明人間のように認識されてしまっています。外国人労働者は社会のさまざまな場所で仕事を担い、彼らがいなければ私たちは生活できないほどです。

そんな外国人労働者を、社会の一部を担う大事な存在で一人の人間として認識し、心を寄せることから共生は始まります。県民一人一人がそれを意識し実践すればお互いに成長でき、生活をより豊かにできます。



熊本学園大学 外国語学部 申 明直 教授



菊池女子高校の文化祭に出店した「せいかいかいぎ」

「はい、きくち〜」。明るい掛け声とともに笑顔で写真に写るのは、菊池市在住の外国人を中心としたコミュニティ「せいかいかいぎ」のメンバーたち。この日は菊池女子高校の文化祭に出店し、それぞれの国の郷土料理を販売しました。

特にベトナム料理の揚げ春巻きが好評で、約1時間後には完売。「他国の文化に触れる良い機会だった」と話す来場者もいて、異文化への理解が少しずつ進んでいます。

誰一人取り残さないために

「菊池市中央図書館では、持続可能な開発目標（SDG）

「地元の人からは『国籍に関係なくその人自身と接するようになった』という声も聞かれています。

「地元の人は『国籍に関係なくその人自身と接するようになった』という声も聞かれています。

「誰一人取り残さない」という理念に基づき、多文化共生事業に取り組んでいます」と話すのは、図書館専門委員の小堀久男さん。菊池市内の外国人人口は増え続けており、昨年末は約1200人。その多くは、アジア圏域からの技能実習生です。

同図書館では、雇用側と実習生側の双方から「日本語のコミュニケーションが難しい」という声を聞き、市内在住外国人向けの「日本語教室」を令和2年に開設しました。

その後も地域交流を中心とした「日本語カフェ」や外国人主体でイベントを企画・運営する「せいかいかいぎ」を発足し、多文化共生サービスを進めています。



菊池市立図書館専門委員 小堀 久男 さん



異文化理解講座でメキシコの伝統文化「死者の日」を学ぶ子どもたち

私たちは、自治体の外国人向け日本語教室や協議会立ち上げの支援などを行っています。イベントや日本語教室はあくまで「きっかけ」です。大切なのは参加者の外国人と日本人がつながること。つな

理解の一步は知ることから

熊本市国際交流振興事業団では、国際交流イベントや講座の開催などを通じて、多文化共生社会を目指しています。事務局長を務める勝谷知美さんに話を聞きました。

外国人も日本人も 同じ社会を築いていく仲間

熊本市に住む仲間として
外国人や外国にルーツを持つ人たちが熊本に来て暮らし

私たちが、自治体の外国人向け日本語教室や協議会立ち上げの支援などを行っています。イベントや日本語教室はあくまで「きっかけ」です。大切なのは参加者の外国人と日本人がつながること。つな

外国人や外国にルーツを持つ人たちが熊本に来て暮らし

私たちが、自治体の外国人向け日本語教室や協議会立ち上げの支援などを行っています。イベントや日本語教室はあくまで「きっかけ」です。大切なのは参加者の外国人と日本人がつながること。つな

外国人のための相談窓口

熊本市外国人総合相談プラザ

でんわ ☎096(359)4995
ばしよ 熊本市国際交流会館2階

熊本県外国人サポートセンター

でんわ ☎080(4275)4489
ばしよ 県庁本館8階



(一財) 熊本市国際交流振興事業団
勝谷知美 事務局長

私たちに相談してください。

広がる、多文化共生の輪

「見た目が違うから…」「言葉が通じないから…」。このような理由で外国人と関わることを避けていませんか。きっとそれは相手も同じかもしれません。大切なことはお互いに歩み寄ることです。

多文化共生社会の実現に向けて取り組む2団体取材しました。



長洲町
防災マップを見ながら避難経路を確認
長洲みんなでにほんごひろば

「やさしい日本語」による対話が必要

長洲町の外国人人口は総人口の約5%で、そのうち約90%は技能実習や特定技能の在留資格を持つ人です。長洲町では、外国人と日本人が日本語で交流する「長洲みんなでにほんごひろば」が開催され、長洲町地域日本語教室等サポーターとして参加しています。

昨年はJICA（国際協力機構）熊本との共同事業で「やさしい日本語」を使った外国人向けの防災イベントを実施。参加者の多くが避難情報を理解できたようでした。

外国人との交流時には先入観を捨て、相手に興味を持つことが重要です。「やさしい日本語」を使って話すことが、お互いの理解を深める鍵となるのではないのでしょうか。



リーダー
たけもと かおり
竹本 薫さん
(長洲町)



水俣市
地域のと太鼓演奏グループと一緒に演奏体験
みなもんくらぶ

外国人が地域になじむ手助けをしたい

水俣市では「みなもんくらぶ」を毎月1回実施しています。市内で生活する外国人技能実習生が日本人ボランティアサポーターと一緒に、体験活動を通して日本語や地域での暮らし方などを学び、地域になじんで生活していくことが目的です。日本語や日本の文化について「失敗しても大丈夫」と前向きな気持ちで安心して学べる場所を目指しています。

参加者はそれぞれ国籍も違えば文化も違います。しかし、日本語をもっと話せるようになり、水俣市での生活を楽しくしたい気持ちは同じです。これからも地域住民との交流を通して外国人たちがうまく地域で生活できるサポートをしていきます。



水俣市国際交流推進員
プレスリン・ジェフリーさん
(オーストラリア)

WHAT IS

やさしい日本語

簡単な単語や文法を使用するなど、日本語が得意ではない外国人住民でも理解できるように配慮した日本語のこと。

阪神・淡路大震災のときに、外国人住民に避難情報や支援情報を十分に届けられなかったことを教訓に「やさしい日本語」が広がっていきました。

一番の心得は「はさみの法則」

- 1 「はっきり言う」 □をあけて発音する
- 2 「さいごまで言う」 文末まできちんと話す
- 3 「みじかく言う」 短く簡潔に伝える

やさしい日本語に 言い換えると…

- 「やさしい日本語」には「こうすれば必ず理解してもらえる」という決まった答えはありません。相手を思いやり、易しい言葉と「分かりやすく伝えよう」とする優しい気持ちで使ってみましょう。
- CASE1 出身はどちらですか?
あなたはどの国から来ましたか?
 - CASE2 飲食はご遠慮ください
飲んだり食べたりしないでください
 - CASE3 貴重品は自己管理してください
大事なものは自分で持っていきましょう

国際交流“ふれあい”フェスタ

国際理解や多文化共生への理解を深めるため、国際交流“ふれあい”フェスタを開催しました。

ステージでは、世界各国の民族衣装のファッションショーや、外国人市民による日本語スピーチ大会、音楽パフォーマンス、高校生による多文化共生をテーマにした発表などがありました。

また、展示ブースでは、着物、お茶、書道などを体験する日本文化体験コーナー、ベトナム民族衣装(アオザイ)試着体験、在留資格や入国手続きの相談などが行われました。



世界各国の民族衣装



鏡町内田巫女舞



着物着付け体験



インドネシア(バリ)の伝統舞踊

八代で広がる、多文化共生の輪

現在、本市には、35の国・地域の外国人約3,600人が暮らしており、多文化共生に関する取り組みの重要性はますます高まっています。

国籍に関係なく、日本人市民と外国人市民がさまざまな文化や価値観を理解・共有し、お互いを尊重しながら暮らせる住みやすいまちづくりが必要です。

本市では令和3年7月に設立された「やつしろ国際協会」を中心に、市民・民間団体・企業などと一緒に、八代地域の国際化の推進・多文化共生社会の実現に向けて取り組みを進め、「世界の笑顔が咲く国際都市やつしろ」を目指します。

やつしろ国際協会の取り組み

にほんご交流ひろば

“日本語”が共通言語、交流型の日本語教室

外国人と日本人(サポーター)が、テーマに沿って会話をしながら、外国人参加者に言葉だけでなく、日本の文化や習慣にも触れてもらえる内容になっています。毎月開催しており、毎回20~50人が参加しています。

また、日本人(サポーター)は、やさしい日本語を使ったり、スマホなどで画像を見せたり、どうすれば伝わるかを工夫しながら楽しく交流しています。



異文化カフェ

異なる文化や生活習慣を学ぶ

外国人などが講師になり、いろいろな国の生活習慣などを紹介します。毎月開催しており、参加者の皆さんと意見交換をしながら楽しく異文化を学ぶことができます。八代にいながら少しだけ外国旅行の気分を味わうことができます。



やつしろ国際協会では 会員を募集しています

国籍、居住地、年齢などの条件はありません。協会を応援してくださる人、一緒に活動してみたい人は問い合わせください。



問合せ やつしろ国際協会(市役所国際課内)
☎33-6846
Mail yatsushiro.kokusai@gmail.com



ホームページ



Facebook

くらし安心セミナー

八代での防災・防犯・交通・ゴミ出しルール

外国人が事故や事件、災害から身を守り、また、生活上のルールを再認識し、安全に安心して暮らせるための学習会を開催しています。

行政・警察・消防・経済団体などと連携し、実施を希望する会員企業・団体への出前講座形式で行っています。



外国人が活躍する職場見学会

日本での仕事や暮らしを知り学ぶ機会に

会員や市民を対象に、外国人の皆さんが活躍している現場を見学する職場見学会を開催しています。

前回は、トマトのビニールハウスや選果場などを見学し、仕事や日本での暮らしなどについて意見交換などを行い、日本人市民と外国人市民がお互いの理解を深めました。



令和6年2月に、ベトナム料理や日本料理を体験する料理教室を開催しました。ベトナムの伝統料理である「フォー」や日本料理の「太巻き」など、それぞれの国の料理を作り、異文化への理解を深めました。



浴衣を着て総踊りに参加

令和6年2月に、ベトナム料理や日本料理を体験する料理教室を開催しました。ベトナムの伝統料理である「フォー」や日本料理の「太巻き」など、それぞれの国の料理を作り、異文化への理解を深めました。

高田まちづくり協議会
市内の各地域でも、多文化共生のための取り組みが広がっています。高田校区では、外国人市民のこみ出しなどが課題となっていました。そこで、高田まちづくり協議会では「ふれあいまちづくり事業」として、さまざまな行事に外国人市民を招待し、地域の皆さんと外国人市民が知り合えるきっかけづくりを行っています。

地域の取り組み

英語 English	中国語 Chinese/日本語	ベトナム語 Vietnamese/日本語
タガログ語 Tagalog	韓国語 Korean/日本語	インドネシア語 Indonesian
タイ語 Thai/タイ	ネパール語 Nepali/日本語	ヒンディー語 Hindi/日本語
スペイン語 Spanish/日本語	ポルトガル語 Portuguese/日本語	日本語

【対応言語】

必要言語のパンフレットをホームページでダウンロードできます。また、転入の際には、ごみの出し方のほか、防災アプリや日本語学習相談窓口を紹介するチラシなども配付しています。



外国人市民の言葉の不安を解消するため、市役所の各種手続きや相談窓口、保健センター、各支所に「多言語通訳システム」を導入しています。それぞれの言語を担当者にテレビ電話をつなぎ、20の言語で対応します。



テレビ電話で通訳

市の取り組み

本市では外国人市民が安心して暮らせるよう、言語サポートや多言語での情報発信などに取り組んでいます。